

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 上津役 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学, 英語)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 数学, 英語)の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	6.9	69	8.9	56	10.6	51
全国	7.3	73	9.6	60	11.8	56

※英語「話すこと」調査に関しては、参考値のため、集計から除外している。

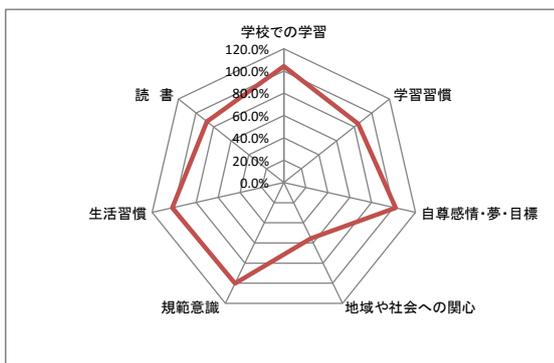
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国の平均正答率をわずかに下回ったものの、学習の成果が見られた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	伝統的な言語文化と国語の特質に関する問題	
	努力が必要な問題	情報を整理し、内容を捉える問題	

数学	全体的な傾向や特徴など	全国の平均正答率を上回り、どの領域においても学習の成果が見られた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	関数に関する問題	
	努力が必要な問題	資料の活用に関する問題	

英語	全体的な傾向や特徴など	全国の平均正答率をわずかに下回ったものの、学習の成果が見られた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	まとまりのある文章を読むことに関する問題	
	努力が必要な問題	情報を聞き取ることに関する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活で大切な「学習習慣」に関する項目が高く、全国平均も上回っている。このことは落ち着いて学習できている校内の雰囲気にもあらわれている。 ・自尊感情や将来の目標は、多くの生徒が前向きな考えを持っていることが明らかになった。 ・生徒の授業に臨む姿勢をより積極的にするために、話し合い活動の工夫や振り返りの時間の充実を図っていくことが必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

授業の中で生徒が自分の考えを書いたり、発表したりできる時間を確保する。そのために、振り返りの時間を確保して生徒の言葉でまとめること、教師が褒め上手(認め上手)になること、「聞く姿勢」指導を徹底し、支持的風土づくりを行うことを重点的に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

塾や習い事、スマートフォン利用の影響などで、普段の就寝時刻が一定でない生徒が3割強見られた。規則正しい生活習慣は、生徒の主体的な学習のために欠かせないものである。生活記録ノートを通して、教育相談の機会など、折に触れて啓発活動を継続する。